

## 山口喜佐夫先生を送る

安 達 秀 夫

山口喜佐夫先生は二〇〇二年度末をもって定年を迎えられる。

山口先生が本学の旧教養部に着任されたのは一九七六年十月で、その後の教養部廃止に伴い、九五年に文学部に移籍したが、通算で二十六年半本学に勤められた。

山口先生の経歴は、普通の大学教員のそれとはちょっと違っている。郷里の愛媛大学教育学部中等教育科の数学専攻を修了後、東京に行きたかったこともあったようで、地元和学校には勤務せず、当時埼玉県草加市に住んでおられた姉上の許に身を寄せ、埼玉県の教員採用試験を受けて一九五三年に草加市立草加小学校に赴任された。五五年に東京都江戸川区立中小岩小学校に移り、六〇年から同区立小岩第三中学校に移るが、その間の五七年から五九年にかけて日本大学文学部英文科に編入学、卒業された。その後、さらに英語の研鑽のために、一九六二年八月小岩第三中学を辞し、アメリカのカリフォルニア大学バークリー校大学院言語学科に入学し、六四年中退して帰国、同年四月から東京神田の錦城高等学校教諭（英語担当）に赴任され、同時に東京YMCA英語学校の非常勤講師になった。その後すぐに地方の大学に勤務する話もあったとのことだが、翌六五年に日本大学大学院文学研究科（英語学専攻）に入っ

て六七年に修了、六八年から関西外国語短期大学専任講師（音声学、英文法担当）に着任された。七二年から川崎医

科大学助教授（英語担当）になり、七六年に本学に赴任された。――要するに小学校、中学、高校、短大、大学と移り、文学部に移籍してからは兼担で大学院修士課程でも教えていたから、「教えてないのは小学一年生と博士課程だけ」と当人も言うほど、専門学校も含めておよそ学校と名のつくところすべてで教えたことになる。こんな経歴を持つ人はそれほど多くはないのではないか。

山口先生のご専門は英語学で、統語論、形態論、意味論だけでなく、特に音声学、音韻論を中心に研究されていた。巻末の研究業績一覧にそのことは明らかだが、それに加えて山口先生の本学における最も大きな功績のひとつは、教養課程の英語教育に尽力されたことである。英語教育そのものが、山口先生のもうひとつの専門領域であり、学生にいかにして英語を身につけさせるか、またいかにしてすでに身につけた英語力を伸ばすことができるか、そのことを常に考えて、論文や著書に著すほか、教室で実践されていた。ここ十年ほどは毎年のように紀要で「日米文化比較」の論文を発表しているが、それも基本的には英語教育のために、母語以外の言語を学ぶにはその言語が生まれ育った文化を背景に置いてみる必要がある、また文化間コミュニケーションのためには相手の文化への理解が不可欠であるという、至極まっとうな主張からだった。またその趣旨を踏まえて新たに開設された科目「アメリカ事情」と「ヨーロッパ事情」で、山口先生は具体的に講義されてもいる。

このように山口先生は、英語学研究だけでなく、実際の英語教育の場でも、さまざまな面から学生の英語力の増進を図ってきたわけで、学生にとっては英語については何でもござれの「英語の先生」であり、われわれ同僚にとっては「英語の手練れ」あるいは「英語の職人」だった。私は山口先生の一年半後の七八年四月に同じ教養部に着任し、それ以来お付き合い願っているが、その間、教えていただいたり助けていただいたりしたことも少なからずある。私とは年齢が一五歳違うが、大いに頼りになるありがたい先輩だったわけで、定年ということをやむを得ないが、お送

りするのは私個人にとってのみならず、文学部にとっても大きな痛手である。

山口先生の定年後の生活設計をうかがうと、東京を離れて、奥様の住む京都に帰るのだという。奥様とはかつて、共に留学に来ていたアメリカで出会い、結ばれたそうで、その後、大阪の金蘭短期大学に教授としてお勤めになっていたところ、やはり今年度で定年退職されるので、今後は京都で一緒にお暮らしになるとのこと。二人のお子さんは共にアメリカの大学院でも学位を取り、それぞれ仕事に就かれるなど、仕上がっているのです、今後は夫婦水入らずの生活になり、時おり愛媛のご実家の海辺に建てた魚釣りのための小屋に泊まって、好きな釣りをしながらのんびりと老後を過ごすのだという。いよいよ厳しさを増してくる「大学冬の時代」に取り残されるわれわれには、何ともうらやましい限りの話だが、ともあれ、今までのご苦勞をねぎらい、悠々自適の生活にお入りになるのを<sup>ことほ</sup>寿ぐとともに、今後ともお元氣でお過ごしいただきたいと願うものである。

〔主な著述目録〕

I 著書

- |       |   |    |           |
|-------|---|----|-----------|
| 一九六九年 | A Seminar for English Grammar                           | 共著 | 山口書店(京都)  |
| 一九七一年 | A College English Grammar                               | 共著 | 金星堂(東京)   |
| 一九七七年 | Trends in English Linguistics (英語学の流れ―伝統文法から現代言語学まで)    | 共著 | 英潮社(東京)   |
| 一九八二年 | School Grammar Step by Step                             | 共著 | 教育出版(東京)  |
| 一九八七年 | An English Grammar and Composition for College Students | 単著 | 金星堂(東京)   |
| 一九九五年 | 英語なんでも情報事典  | 共著 | 研究社出版(東京) |

## II 学術論文

- 一九六九年 A Study of Shakespeare's English mostly in Connection with his Tragedy *Macbeth*  
—In Comparison with Present-day English— 单著 関西外国語大学論集 No. 14
- 一九七〇年 How to Teach English Sounds(1) 单著 関西外国語大学論集 No. 15
- 一九七一年 How to Teach English Sounds(2) 单著 関西外国語大学論集 No. 16
- 一九七一年 A Study of English Reading Comprehension 单著 関西外国語大学論集 No. 17
- 一九七五年 The World of Words 单著 川崎医科大学ジャーナル 教養部編 No. 1
- 一九七七年 「分節音素」と「かぶせ音素」 单著 立正大学教養部紀要 No. 11
- 一九七九年 外国語(英語)習得時における“Reading”に関する一考察 单著 立正大学教養部紀要 No. 12
- 一九七九年 英語教育と翻訳 单著 立正大学教養部論集『ロータス』第13号
- 一九八〇年 Pattern practice 再考 单著 立正大学教養部紀要 No. 13
- 一九八二年 英語の発音—省略型を中心として— 单著 立正大学教養部論集『ロータス』第15号
- 一九八四年 英語教育における音声教育の重要性 单著 立正大学教養部紀要 No. 17
- 一九八五年 英語教育における社会・文化的意味の重要性 单著 立正大学教養部論集『ロータス』第18号
- 一九八六年 (続) 英語教育における社会・文化的意味の重要性 单著 立正大学教養部論集『ロータス』第19号
- 一九八六年 英語音とそのスペリングの研究 单著 立正大学教養部紀要 No. 19
- 一九八九年 国際化時代における英語教育 单著 立正大学『フォーラム』17号
- 一九九三年 日米文化比較(Ⅰ) 单著 立正大学教養部紀要 No. 27
- 一九九四年 日本人的発想・アメリカ人的発想 单著 立正大学『フォーラム』25号
- 一九九五年 日米文化比較(Ⅱ) 单著 立正大学教養部紀要 No. 28
- 一九九六年 日米文化比較(Ⅲ) 单著 立正大学文学部研究紀要 No. 12

- 一九九七年 日米文化比較(IV) 单著 立正大学文学部研究紀要 No. 13  
 一九九八年 日米文化比較(V) 单著 立正大学文学部研究紀要 No. 14  
 一九九九年 日米文化比較(VI) 单著 立正大学文学部研究紀要 No. 15  
 二〇〇一年 英語教育における Listening と Speaking の研究 单著 立正大学文学部研究紀要 No. 17  
 二〇〇二年 英語教育における Reading と Writing の研究 单著 立正大学文学部研究紀要 No. 18

Ⅲ その他(教科書・辞書・エッセイ)

(教科書)

- 一九七一年 The American Way of Life 共著 金星堂(東京)  
 一九七二年 The Unfolding Years 共著 文修堂(東京)  
 一九七三年 The Quality of Life 共著 金星堂(東京)  
 一九七五年 A Young Person's Guide to Life and Love 共著 金星堂(東京)  
 一九七七年 Word Stories 共著 東洋出版(東京)  
 一九七九年(改訂)The Trumpet of Conscience 共著 太陽社(東京)  
 一九八〇年 Between Parent & Teenager 共著 東洋出版(東京)

(辞書)

- 一九七五年 Comprehensive English-Japanese Dictionary 共著 旺文社(東京)  
 一九八六年 Comprehensive Japanese-English Dictionary 共著 旺文社(東京)

(エッセイ)

- 一九八一年 英語教育雑感(1) 单著 教育出版『高校通信』第15巻第13号  
 一九八二年 英語教育雑感(2) 单著 教育出版『高校通信』第16巻第3号

- |       |                                     |    |                     |
|-------|-------------------------------------|----|---------------------|
| 一九八二年 | 英語教育雑感(3)                           | 単著 | 教育出版『高校通信』第16巻第5号   |
| 一九八三年 | アメリカ英語の発音(1)                        | 単著 | 創元社『ノック・ノック』5月号     |
| 一九八三年 | アメリカ英語の発音(2)                        | 単著 | 創元社『ノック・ノック』7月号     |
| 一九八三年 | アメリカ英語の発音(3)                        | 単著 | 創元社『ノック・ノック』9月号     |
| 一九八三年 | アメリカ英語の発音(4)                        | 単著 | 創元社『ノック・ノック』11月号    |
| 一九八四年 | アメリカ英語の発音(5)                        | 単著 | 創元社『ノック・ノック』1月号     |
| 一九八九年 | 国際化時代における英語教育                       | 単著 | 立正大学報『フォーラム』第17号    |
| 一九九二年 | San Diego State Universityの学生群像     | 単著 | 立正大学教養部論集『ロータス』第25号 |
| 一九九三年 | サンディエゴ州立大学の実態                       | 単著 | 立正大学報『フォーラム』第21号    |
| 一九八六年 | 文部省検定テキスト 中学 One World (I, II, III) | 共著 | 教育出版(東京)            |